

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100069		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 香貫山 ユニット名(はまゆう)		
所在地	静岡県沼津市下香貫塩満1830-2		
自己評価作成日	平成23年 8月 24日	評価結果市町村受理日	平成23年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2291100069&SCD=320&PCD=2
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	平成23年 10月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の声にスタッフ一人一人が耳を傾け、意志決定を大切にしている。 健康に留意し、安全で安心して暮らせる様支援し、ご家族ご利用者様にも笑顔で対応し、毎日のケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の開設当初は近隣の理解が得られず、管理者は自治会長を初め多方面に何度も足を運び、数年がかりで運営推進会議の参加を呼びかけ、参加がきっかけで地域の方々と交流が始まっている。家族会や敬老会には全職員で弁当やバイキング料理を手作りし、入居者や家族の楽しみとなり家族同士が顔見知りになって、事業所を全体で支えていく関係作りができて、入居者・家族・職員の「えがお」を大切にアットホームな事業所作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務開始時に社是・理念コンプライアンスローガンを確認し、全体会議・随時のカンファレンス・ミーティングを通して日々理念の実現に取り組み実践している。笑顔 お客様の言葉 意志を大切にホームの理念に掲げ実践している。	朝礼で毎日唱和し、全体会議やカンファレンス等の中で話をして意識付けし共有している。ケアにおいては相手の立場に自分を置き換えて行うことで、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、お祭りや運動会への参加、子供会に古紙回収協力などを通じて地域との交流を促進している。	入居者は天気が良ければ散歩や買い物に出かけ、近所の人と挨拶や話をしている。運営推進会議の参加がきっかけで自治会との交流が少しずつ深まり、行事には前庭を提供したり相談に乗ってもらう関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭やイベント等、行事 講習会への参加を地域住民に募り、認知症への理解や支援方法を実際に見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期的に開催され、地域関係者、包括支援センター、ご家族、ご利用者さま等の参加により地域やご家族との交流関係を築く取り組みが行われており、有益な意見をサービス向上に活かしている。	開催は月末金曜日とし、事業所の報告の他に災害時の連絡方法や、目標達成計画の取り組みについても話し合いをしている。津波に備えて「ライフジャケット」の購入について、家族と具体的な検討をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回市より介護相談員が来訪され利用者との相談などを行っている。市のグループホーム連絡協議会を通して、認知症介護研修ボランティアなどにも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市の窓口で議事録を届け医療の連携について相談をしたり、包括支援センター職員とは認知症サポーター養成講座等を通して交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は常に外してある。身体拘束についての研修会等に参加し、ホーム内でも勉強会を行う等、その意義を良く理解し鍵を掛けないケア等の実践に取り組んでいる。	入居者が自由に出たい気配があれば、職員と一緒に歩いている。身体拘束0宣言を掲示し職員は勉強会を行っているが、入居間もなくで不安定な方やトイレが気になる方がいてケアの中で「ちょっと待って」の言葉が聞かれる。	全職員が「言葉の拘束」を含めた「身体拘束禁止の対象になる具体的な行為」を正しく理解し、ケアに活かしていくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お客様の意志を尊重し虐待防止に努める。研修会等に参加し、スタッフの知識を高め利用者の異変にすぐ気付く様に努めている。		

静岡県(ニチイのほほえみ香貫山 はまゆう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している方がいるので一応の知識 理解はある。研修会等にも参加し、支援に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安、疑問点が無くなるまで十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・運営推進会議、面接時や電話などを通し、ご利用者やご家族のご要望・ご意見を聞き取り、全体会議にて話し合い、ホーム運営に活かしている。	家族会には多数の家族が参加し、家族同士のつながりも出来ている。面会時や電話で、管理者は細かなことまで家族に伝えて意見を聞き、話しやすい関係作りをして反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行う全体会議・ケアカンファレンス・個別面談等、スタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。	職員は意見や提案があればまずリーダーに話し、リーダーから管理者に伝える流れがあり、意見を出しやすい環境ができていて、内容によって管理者から本部に上げている。職員の提案で、受診前の入浴の対応などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップを行い、合格者には給与の増額がある。職員の意見を大切にいつも笑顔いっぱい楽しい職場を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主催の新人研修や、ケアマネジャー・介護福祉士研修、グループホーム連絡協議会の研修医療関係の研修などへの参加が出来るよう、機会の確保を行っている。資格取得に対する優遇処置もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での交流や近隣の他ホームとの勉強会・相互訪問などを通して、サービスの質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること、不安なことや要望等を、親身になって最後まで聞き、安心して生活出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からホーム長、ケアマネジャーがご家族と面談し家族の話しに傾聴し、ご入居されてからも細かに毎日のご様子を伝えコミュニケーションを取り合い、安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様・ご家族とのアセスメントを行い、必要としている支援がどのようなものかを見極め、ホームで出来る支援等を詳しく説明をし、ご紹介をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様と日常生活を共にし、コミュニケーションなどをとりながら信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された時やお電話での対応時には必ずお客様の最近のご様子をお伝えし、又、毎月のおたよりを発送し、近況をご家族に伝え皆一緒に楽しく、暮らしをともにする関係を築ける様、笑顔を忘れずに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの友人やご家族との関係や大切にしてきた事柄をスタッフが共有し支援に努めています。	初めての訪問者は家族に関係を確認し、それ以降は自由に友人や元従業員等が訪ねて来てくれ、これまでの関係継続の支援をしている。入居者同士が馴染みの関係となり、食事の時むせると背中をさすったり互いを気遣う関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で一緒に楽しめる様に心がけています。ご利用者様同士で和やかに談笑したりしてコミュニケーションをとりながら、支えあいながら1日が楽しく暮らしていけるよう支援しています。		

静岡県(ニチイのほほえみ香貫山 はまゆう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された方の他施設への面会も行っている。ご家族と連絡を取り合い現況を把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常会話や、ご家族との面談から暮らし方の希望 意向の把握に努めている。	生活暦や暮らし方から、商売をしていた方には話しを合わせて思いを汲み取り、不穏な方にはさり気なく側に寄り添って話を聞く等して思いや意向の把握に努め、全体会議やカンファレンスで話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力して頂き、基本情報シートや生活史シート等に生活歴や馴染みの暮らし方、入居までの経過や背景について出来る限り詳細に記入して頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活支援シートを作成し、一日の過ごし方や活動項目別にご自身でしている事(出来る事)を書き出し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の定期カンファと必要時には随時モニタリングとカンファレンスを行っている。課題によっては主治医に相談したりご家族に同席頂き多方面の意見を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスでは居室の担当者が中心となり、他の職員から問題点を投げかけ、家族や医師の意見を基に計画作成をしている。認知症の専門医から要請があり、家族と担当職員がケア会議に参加することになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を詳しく介護記録に記入している。見直しに活かせるように介護計画に基づいた記入に努め、特記事項は管理日誌にも記入し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてマッサージのサービスやリハビリ等行っている。散歩時の買い物や季節に応じて花見や食事など柔軟な対応に、心がけている。		

静岡県(ニチイのほほえみ香貫山 はまゆう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会、老人会、行事等に参加（お祭りへの参加、子ども会の古紙回収協力、運営推進会議を通じて地域の方や自治会との交流を促進できる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族との連携を密にし適切な医療が受けられる様支援している。サマリーにて、日ごろの状況もお知らせしている。	変化があれば早めに家族に連絡し、かかりつけ医や他科の受診は家族が行い、緊急の場合や協力医受診は職員が同行している。協力医は2週間毎に往診があり、24時間対応の体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の往診時に、ご利用者様の状態や必要な情報の報告、急変時における主治医への上申など、適切な介護ができる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	変化が生じた時は、本人・家族・医療関係者と連絡を密にし、現状に即した情報交換や日常の経過など提供し安心して医療が受けられるように支援し、入退院時の協力や相談が出来るような関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、ご家族様と早い段階から、重度化や終末期に向け他話し合いを行い、主治医、医療関係者などと話し合いができる事を十分に説明し関係者と共に支援に取り組んでいる。	事業所の方針を入居時に本人と家族に説明し、体調の変化等で早い段階に家族と話をしている。入院に至るまでの医療機関との連携について検討し、市に相談して訪問看護事業所との契約等やレベルが低下した場合の職員の対応も話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急連絡網」「緊急時対応マニュアル」など活用し、急変や事故発生時に対応。その後の対応についてもカンファレンスを行う。又、月一回の全体会議等で緊急時の研修を行っている。心肺蘇生法等の研修を行っている。今後も、続けてゆく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回ホームにおける防災訓練の実施 消防署による定期的な防災訓練への参加 AEDの研修会などに取り組んでいる。自治会・地域住民・ボランティア等にも協力を依頼している。地域の「避難場所確認も行っている。	設定を変えた訓練を毎月行い、夜間想定では夜勤者のみで2階から時間を計って降ろす訓練や、バルコニーや非常階段にまとめる訓練をしている。地域の防災訓練には職員が参加し、個別のリュックに防寒着や下着類、職員の持ち出しの中には薬も準備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を守れる様努めている。個人情報についてはイニシャル表示にする等対応している。言葉かけにも注意している。	本人や家族の希望の呼び名で声かけし、一対一で親しみを込めて話す時は少し砕けて話しかけることもある。利用者同士気が合わない様子があれば、職員が間に入る等して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望に添う様日常生活を送る中で一人一人に合った声掛けをし、本人の希望を尊重し、自己決定できるようにした生活支援を心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合わせたサービス計画表を作成し、本人のペースを尊重した支援を行っている。無理のない日常生活を送ってもらうよう心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の意志、個性を尊重し、身だしなみやお洒落ができる様、声掛けや見守り等の支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備や盛り付け、片付け等を楽しんで行って頂ける様支援している。	食材は近くの食料店から毎日届き、献立表を入居者の好みと材料でアレンジして担当の職員が調理し、一緒に食卓を囲んでいる。5の付く日はパンの昼食と決め、月1回の外食と共に楽しみになっている。入居者は出来る範囲で片付け等に参加し、力を発揮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立にそった料理の提供や水分量が確保できる様一人一人に合わせた支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	、毎食後の口腔ケアを実施している。清潔保持のため、一人一人に合わせた支援を行っている。			

静岡県(ニチイのほほえみ香貫山 はまゆう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に不安を感じないよう排泄のタイミングを見計らってさり気ない声掛けやトイレ誘導、見守りを行っている。、ともに喜びあう声掛けを実践している。	カンファレンスで個別のケースについて話し合い、情報を共有してトイレでの排泄を支援している。トイレにはパット等を準備し、失禁した場合でもさり気なく浴室に誘いシャワー浴で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数をチェック、記録している。便秘傾向のある方には水分補給、野菜の摂取、運動への参加等を促し予防に繋がる支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日の中で、出来るだけ本人の希望の時間帯に合わせ楽しくゆったりとした気持ちで入浴できるよう配慮している。入浴を好まない方には負担にならない様声掛けやタイミングを工夫し自然な流れで入浴出来る様に心がけている。	月、水、金曜日の午前・午後が基本だが、家族の希望で受診の前や、気がのらなくて入らなかった方は火、木、土曜日にも入浴をしている。浴室には個別に着替えの入ったバックが用意しており、入浴を好まず拒む方も誘い方を工夫して週1回は入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせて入床して頂いている。昼寝や居室での休息も自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人記録に閉じていつでも確認出来る様にしている。スタッフで何重もの確認の上服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の興味・希望を日常生活の中から感じ取り、力を生かせるような役割や楽しみを支援している。家事やレクリエーション、運動等、毎日の生活の流れの中で柔軟に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望により、近所の喫茶店、散歩、買い物等外出する機会を設けている。	買い物に出かけたり、外食は近くの店に事前に注文をしてから車椅子の方も一緒に出かけている。花見には昼食予定の店の送迎車を利用して出かける等、地域の協力を得ながら外出の支援をしている。11月には家族も参加して日帰りのバス旅行を計画している。	

静岡県(ニチイのほほえみ香貫山 はまゆう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の欲しいと言う物をご家族様からの了承の上で購入させて頂いている。外出でのレクリエーションでは、本人がお小遣いを所持し買い物できる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族にお電話したり、スタッフがお電話を掛けご家族と会話できる様にしたり、手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾ったり、居間には季節に合わせた飾りつけをしている。浴室など温度差が無いよう床暖房を利用し注意をしている。音楽が皆好きなのでいつも聞いている。よりよい一日が送れるよう支援している。	南向きの居間兼食堂は明るくゆったりとして、中心にあるキッチンからは食事の仕度の匂いが漂っている。共用空間は掃除が行き届き清潔で、気候に合わせて窓を開けたり空調を管理して、入居者の体調に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテラスなど気の合った利用者同士で過ごされている。いつも笑顔の絶えない居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの家具やご家族のお写真やプレゼント等が飾られ居心地良く過ごせるように工夫している。	使い慣れたベッドや鏡台・机・衣桁等や仏壇等の大切な品が持込まれ、家族と相談をしながら、夜間不穏になる方がドアからの光で更に不穏にならないように工夫し、南向きの居室は夏と冬とで配置を変えて過ごしやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の出来る事や分かる事は出来るだけ行って頂いている。例えば、台所仕事・お掃除・片付け・食器拭き・洗濯たたみ・洗濯干し他		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要／事業所記入】			
事業所番号	2291100069		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 香貫山 ユニット名(あずさ)		
所在地	静岡県沼津市下香貫塩満1830-2		
自己評価作成日	平成23年 8月 24日	評価結果市町村受理日	平成23年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2291100069&SCD=320&PCD=22>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	平成23年 10月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康に留意し安全で安心して暮らせるように支援し、ご家族様・利用者様にも笑顔で、過ごせるよう心掛けています。
野菜食を中心においしいお食事の提供をこころがけている。
ホーム内の整理 整頓、皆様の清潔 の保持に努め、気持ちよく生活をして頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を毎朝唱和し、スタッフの理念と浸透を深めると共にホーム独自の理念を掲げ共有実践に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に常に参加している。防災訓練、祭り、清掃、運動会、古紙回収に参加している。 理容は近隣の理容店を利用している。 近隣の飲食店に出かける。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア、子供等にホームに来ていただき利用者に接することにより認知症の理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者の状況サービスの状況など発表し意見の交換をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、包括支援センター、自治会地区の役員、相談員、ご家族に出席していただき近況等を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠を外し常に訪問していただけるようにしている。身体拘束0を目標にし、禁止事項を理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止法」の研修会に参加し、ホーム内で取り組んでいる。スタッフの意識を高めるよう努力している。		

静岡県(ニチイのほほえみ香貫山 あずさ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に成年後見人制度を利用している方がおられるので学ぶ機会を持ち勉強出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際には、ご家族様には十分な説明を行い、理解・納得して頂いた上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様が出席された時や家族会に来られた時、意見や要望を伺い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンス等で意見交換を行い、ホームの向上に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり給与アップが可能である。また職員の意見を大切にしながら働く職場になるよう日々努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修を受ける機会を作り、ケア技術や知識の向上につなげている。またグループホーム連絡協議会で主催している定期的な研修への参加の推進も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの相互訪問や研修などを通じてサービスの質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護サマリー、センター方式、アセスメント、健康診断書、ご入居申込者状況申告書により要望を理解し、安心して生活できるようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、ご本人ご家族とよく面談し、ご家族が何を望まれているかをよく理解する。 ご家族が何でも相談出来るよう信頼関係を築き上げていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際、ご家族とよく話し合い本人・家族がホームにどんな事を求めているのか、どんな風に日々過ごしていきたいのかを見極め要望に添うような支援サービスを提供して行く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る仕事はご本人のペースでやって頂き、張り合いを持って頂く。 何か出来る事を見つけ出す。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、毎月のお便りにより日常のホームでの様子を見て頂く。何か変化があった時などは家族に密に連絡する。ご家族が面会に来られた際は近況報告を細かく行いスタッフとご家族共に協力し本人を支えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた馴染みの友人、家族との関係を引き続き保っていけるよう気軽に気持ちよく寄って頂けるようなホームにする。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握しかつ尊重し良い人間関係が築けるようサポートする。 1人1人が住み心地が良く楽しく暮らせるような雰囲気を作り出す。		

静岡県(ニチイのほほえみ香貫山 あずさ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃より誠意と情熱を持ってご本人・ご家族と接し信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中から希望、意向を把握し可能な限り沿うよう努力する。 ご家族に意見を伺ったり相談をする。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式(基本情報、暮らしの情報、心身の情報、焦点情報)日常生活支援シートなど読み返し経過状況の把握をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝・昼の2回バイタルチェックを行う。 介護記録により体調、1日の過ごし方、申し送り把握する又特記事項により心身状態を把握する更にカンファを行い気付いた点を出し合う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回全体カンファレンスを実施している。その都度カンファレンスを開けるようにしている。 利用者が安心安全で楽しく過ごせるように話し合う日頃よりご家族の意見も取り入れるように努めている。 介護計画書交付の時に話し合う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務の際、未読の管理日誌を読みサインをし状況を把握し忘れないようにする。又スタッフ間で直接申し送り情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族との対話の中からニーズを発掘している。 リハビリに行かれたりマッサージを受けたり、皆で外出や外食をしたりする。		

静岡県(ニチイのほほえみ香貫山 あずさ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり子供会の古紙回収に協力する。 近くの食事処に外食したり、喫茶店へお茶をのみに出かけ楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診日を設け本人及びご家族の希望を大切にし緊急時には速やかに連携がとれるようにしてある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気づきを常に受診記録に書いて、往診日や緊急時には提出または説明が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族、医療機関との連絡関係を密にし情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての説明やターミナルについての話をご本人やご家族に伝え、ご本人やご家族の意向に沿ったケアが出来るだけ行えるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルなどをつくり急変や事故発生時の対応ができるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を決め月1回テーマを決め災害訓練を行っている、年に2回消防署職員による指導も受け地域の防災訓練に参加している。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報についてはイニシャルで表示し個人情報マニュアルに関する研修などで対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合った言葉かけをし意思を尊重し生活支援に役立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合わせたサービス計画表を作成し計画に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の意思や個性を尊重し身だしなみやおしゃれが出来るよう声かけや見守り等支援している。化粧ボランティアなども利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭く人、食器を拭く人、お盆を拭く人と役割分担をして皆で協力しながら毎日が過ごせるよう支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜食中心としたバランスの良い食事を心がけ、また糖尿病のある方などは甘いものを控えめにするなど一人一人に合わせた食事の提供を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、朝食後、昼食後、夕食後と口腔ケアを実施し、一人一人に合わせた援助を行っている。		

静岡県(ニチイのほほえみ香貫山 あずさ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けなどしてトイレ同行、見守り、介助などの支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や野菜、おやつに寒天やヨーグルトを提供し出来るだけ自然排便となるように努めています。また運動などの支援も行い個々に応じた便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通院、往診などある時は、その都度利用者の状況にあわせた入浴支援を実施しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調など考慮し居室で休んで頂いたり食後のお昼寝をして午前、午後共に活動的に過ごして頂けるよう支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はスタッフがいつでも見える所に置きいつでも確認することが出来る。 症状の変化など見逃さないように配慮している。 薬の変更がある場合は申し送りを行い全職員が把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間の行事に合わせ開催し、その中の役割を楽しんで頂いています。 ご本人様の興味や喜び、楽しみを感じ取れるように日々を楽しく過ごして頂けるよう支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に散歩に出たいと希望があれば、スタッフが同行し、また日頃の運動のため皆で近くの公園に行ったり楽しみが持てるように支援をしている。 その都度ご家族とは連絡を取り合っている。		

静岡県(ニチイのほほえみ香貫山 あずさ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いを預らせていただき、必要に応じ買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたい時は出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し居室内も快適な温度にし快適に過ごせるよう支援をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを見たり、おしゃべりが出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が動きやすいよう部屋の配置をしている。ご家族と相談をしながら、好みの品などをおき、本人が心地よく過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を手伝って頂いている。 (食器拭き、テーブル拭き、洗濯干しなど)		